

[ここに入力]

「人間の土地」は小松由佳さんの代表作。シリア内戦を描くノンフィクション。小松さんがこの本にサインをしてくださいました。「情熱が可能性を生み出す！」・・・遅しくも理不尽なことに挑む小松さんの心情を垣間見る思いでした。

紅葉台



新聞

第64号

2023年

2月11日

発行人：関谷 孝

小松由佳さん シリア取材報告会から

今から2年前、「人間の土地」で作家デビューし「植村直己冒険賞」を受賞した小松さん。昨年40歳になりました。かつて日本人女性初のK2（世界第2位の標高）を登頂し、9死に1生を得て帰還したことが大きな話題になりました。その後、フォトグラファーとなりシリア難民などを取材しています。現在はシリア難民の夫と暮らし、2人の子供を育てながら取材を続けています。八王子のめじろ台にお住まいなので、いつかお話を聞きたいと思っていましたが、今回「春しるべ」の谷本さんの紹介で、「ここから」という喫茶店で取材報告会があることを教えてもらい参加しました。



皆さんは、毎日のようにウクライナ侵攻とロシアの関係ニュースを聴いていると思います。同じように中東の1国シリアは、2011年から11年以上にわたって内戦状態が続いています。国民2240万の中、国外に逃れたシリア難民（難民と略）は、約670万人。国内には、700万人近い避難民がいます。国民の2人に1人がこの11年で生活を失いました。まさに、ウクライナ戦争の前哨戦を彷彿とします。

小松さんは、毎年シリアに出かけ、命がけの取材をしています。その話の中で印象に残ったことを報告したいと思います。シリア難民がいるトルコでは、経済政策が失敗し、物価がこの1年で2倍近く高騰している。トルコの人々の不満は噴出し、政府は100万人の難民を帰還させる計画を公表している。そのため、難民が最後の希望として欧州に不法入国をする人が増えている。密入国業者の手を借り、地中海を小型船で渡る写真を見た人もいます。運よくギリシャに上陸出来たら、難民としての身元保証書類をもらい、目的地まで何か月もかけて歩きます。欧州の国々の中でもオランダ、ドイツ、英国は、難民に対する手厚い保護政策がとられているので、この国に行く人が多くいる。若年層である難民は労働力として迎えられているからです。しかし経済負担増や難民に市民の税金が使われることに市民が不満を持ち、排斥運動が起きはじめています。イタリアに急伸右翼勢力が台頭しているのはその影響もあるようです。

しかし、「住み慣れた故郷を離れざるを得なかった難民の人たちの過酷な状況を思うと、どこに問題があるのか国際社会は真摯に向き合っていかなければならない。」と話していました。独裁国家のシリアはロシアの援護もあり、町はすべて破壊されている。小松さんが命がけから取材したときも政府側の人しか残っていませんでした。密告が横行し自分を守ることで精いっぱい。かつての故郷は破壊されてしまった。そのため暮らしを失い、故郷に戻ることが出来ない。難民問題は、シリアだけで

はない。今でもミャンマーでもアフガニスタンなど多くの国が問題を抱えている。今年世界人口は80億人。難民は過去最高の1億人。80人に1人が難民になっている。小松さんが取材を続ける強い意志は、このような現実を知らせ、世界的な課題になっている難民問題を知ってもらうことにあります。日本もいつの間にか独裁国家になっていないだろうか、戦争をしないという憲法がいつの間にか専守防衛という名のもとに敵基地攻撃が出来るようになってきていないだろうか。まさに他人事でない状況に近づいていないだろうか。小松さんの話を聞きながら背筋の寒くなる思いがした。それを变えるのは私たち国民にあると強く思った。【文責 関谷】

シダーローズを知っていますか 阿部 ひろみ



穏やかな冬の日差しの中、散策した綾南公園には、一際高く聳えるヒマラヤ杉が植えられています。木々の周辺にはこの時期、松ぼっくり（シダーローズ）が落ちています。最盛期はすでに過ぎていましたが、その姿は美しく、

思わず手に取ってしまいました。下から見上げると、枝の先端には、直径7~8センチほどの丸い影がまだついていて、それらは、まさに落ちる寸前のシダーローズでした。すでに受粉を終えたものから、次々と風や太陽の力を借りて、四方に花弁を一枚ずつはがすようにして飛び散っていくのだというのです。少しでも次の命につながるような場所へと運ばれるのでしょうか。ウォーキングの仲間の一人はそんなヒマラヤスギ談議をしてくれました。そして、残った姿が美しいシダーローズというわけです。こうして私たちを最後まで楽しませてくれることも心憎いですね。でも、そんなことならだれでも知っていることでは？と言われそうですが、こうして改めて言葉にしてみても、その仕組みに触れたとき、どのような感想を持たれますか？

自然の営みの中では、したたかさとも思われるような仕組みのすばらしさ、そして互いに助け合って生きる姿があり、どこまでも静かな均衡が保たれている。時には、こうした自然の営みを自分事として受け止めてみることも大事なのではと思うこの頃です。

シダーローズ拾いは、毎年1月の末ごろまで。平山城址公園など、八王子周辺でも体験できるようです。

♥ シダーローズはその言葉自体が優雅ですね。（ヒマラヤ杉は、マツ科ヒマラヤスギ属。）この薔薇のようなものは、ヒマラヤ杉の松



ぼっくりなのです。紅葉台にも西公園に大きなヒマラヤ杉がありましたが、昨年伐採してしまいました。シダーローズが良く落ちていたので、拾ってはクリスマス飾りにしていました。

紅葉台新聞が『高尾フモト同盟』に掲載されています。高尾にあるお店や様々な情報が満載です。検索して見てください